

シネマエポックで観て欲しい傑作映画3選とトーク



まるまる
とえいが

2021.10/10sun, 10/31sun, 11/14sun

会場 シネマエポック
(倉吉市山根55 パープルタウン3F)

まるまとえいが

2021.10.10 sun, 10.31 sun, 11.14 sun

いつもは湯梨浜町の東郷湖のほとりから“とまどい”的映画をお届けしているジグシアターが、おとなり倉吉市のシネマエポックをお借りして「これはもうぜったいみんなに観てほしい！」という映画史に残る大傑作だけをお届けする「〇〇と映画」。なんでも入る〇〇に、ジグシアターは「子ども」「ショッピングモール」「食卓」という身近なテーマを入れて映画を上映し、上映後にはそれぞれのテーマにちなんだ最高のゲストをお迎えしてトークをお送りします。この3本は作られた年代も国も方向性もまったく異なりながら、いずれも各ジャンルのチャンピオンと言っても差し支えない大傑作。映画はよくわからないというあなたも、映画が好きで好きでたまらないというあなたも、まずはこの3本を観てください。普段使いのパープルタウンで、シネマエポックの大画面で、大勢でひとつの映画の世界に浸り、最高のゲストと共にじっくりと〇〇に思いを巡らせてみてはいかがでしょう。あなたと映画の出会いが新たな〇〇を生み出しますように！

AFTER TALK 各映画終了後に開始 約60分 ▶

〇〇にちんだゲストを招いてトークを行います。
自分で観るよりも映画がまるっと面白くなる！

司会 柴田修兵 (jig theater)

映画解説 佐々木友輔 (映像作家・鳥取大学地域学部 講師)

#1 子どもと映画



『動くな、死ね、甦れ！』

監督: ヴィターリー・カネフスキイ

10/10 sun 14:00-17:15 (開場13:30)
映画終了後のアフタートーク約60分含む

かけねなしの傑作！永遠なる 映画の奇跡を目撃せよ！

ジグからの
おすすめ
ポイント！

日本を代表する映画評論家の蓮實重彦が「映画を見るという“文化的”な習慣とはまるで異質な、いわば“人生の選択”とでもすべき苛酷な体験である」という恐ろしくも格好よい言葉を寄せる人類文化遺産レベルの傑作。ストリートチルドレンとして少年時代を過ごし、成人してからも8年間無実の罪で投獄されていた経歴を持つヴィターリー・カネフスキイ監督が、54歳にしてカンヌ国際映画祭の新人監督賞を受賞した本作は映画界に衝撃を与えた。カネフスキイはソビエト連邦の貧しい炭鉱町を舞台に、不安定で混乱した世界の中で生きる少年と少女の姿を鮮烈に描き出す。このとてつもない映画を「子ども」というキーワードを道しるべにして、倉吉の豊かな自然のなかで子どもたちの育ちに向き合う得田優さんとその魅力を語り合いたい。

あらすじ
第二次世界大戦直後、収容所地帯と化したソビエトの炭鉱町に生きる12歳の少年ワレルカ。純粋無垢だが不良ぶってたびたび騒動を起こす彼と、その前に現れては危機を救う少女ガリーヤ。やがて運命はとんでもない方向へ――。

<1989年公開/105分/モノクロ/ソビエト連邦/配給 gnome>

TALK GUEST 得田優 自然がっこう 旅をする木



石川県生まれ。広告制作、世界放浪を経て、2011年鳥取県倉吉市に移住。2015年から自然と人、人と人とが、平和的、創造的に共存できる社会を目指して、夫婦で「自然がっこう旅をする木」を始める。自然保育のようちえんは7年目。自由な学び舎(オルタナティブスクール)は3年目を迎えている。子ども2人(小学3年・1年)。

#2 ショッピングモールと映画



『ゾンビ』(日本初公開復元版)

監督: ジョージ・A・ロメロ

10/31 sun 14:00-17:15 (開場13:30)
映画終了後のアフタートーク約60分含む

ゾンビ映画の原点。日本中を 熱狂させたゾンビが今甦る！

ジグからの
おすすめ
ポイント！

「ロメロだよ、それくらい観とけ！」とは『桐島、部活やめるってよ』で神木隆之介が演じた映画部部長の名セリフ。それほどジョージ・A・ロメロ監督の『ゾンビ』はある一部では有名過ぎる作品だ。いわゆるパニックホラーでありながら、泥沼化したベトナム戦争後のアメリカ消費社会への風刺も込められたゾンビ。その魅力は今も色褪せず、映画・マンガ・アニメなど様々な作品の中で増殖をつづけ、ショッピングモールもその活躍の舞台として描かれつづけている。ゾンビ学の専門家にして日本の大学で唯一ゾンビの授業をしている岡本健さんを招いて、ゾンビの誕生から現代に至るまでの社会や作品の変遷について教えてもらおう。劇場でしか観られない1979年日本公開当時の復刻版を、ハロウィンの仮装をしながらショッピングモールで観よう！

あらすじ
惑星から降り注いだ光線によって地球上の死者が“ゾンビ”として復活。生ける屍たちは瞬く間に世界を覆いつくした。郊外の巨大ショッピングモールにたどり着く主人公たち。夜明けとともに生き残るのは果たして――。

<1979年公開/115分/カラー/アメリカ・イタリア合作/配給 ザジフィルムズ>

TALK GUEST 岡本健 (※オンライン登壇) 近畿大学総合社会学部 准教授



近畿大学総合社会学部准教授。専門は観光社会学、メディア・コンテンツ研究。アニメ聖地巡礼、ゾンビ、アナログゲームなど。様々な現代文化を研究している。VTuber「ゾンビ先生」として『YouTubeゾンビ大学』を開講。著書に『大学で学ぶゾンビ学』(扶桑社新書)『巡礼ビジネス』(KADOKAWA)などがある。

#3 食卓と映画



『お茶漬けの味』

監督: 小津安二郎

11/14 sun 14:00-17:15 (開場13:30)
映画終了後のアフタートーク約60分含む

まったく古びれないどころか 今まさに見るべき映画！

ジグからの
おすすめ
ポイント！

1950年初頭の東京の流行りのファッショントート、乗物、乗り物、食べ物など、日常生活の彩りをモダンな輝きを持って描く小津安二郎監督円熟期の傑作。当時のスター俳優が演じる夫婦・友人・姪っ子たちのテンポのよいお洒落な会話は、まるで最近のラブコメドラマのよう。こだわり抜いた美しい構図とカメラアングルから生み出される独特的の映像世界は「小津調」と呼ばれ、いまも世界中の映画監督や映画ファンから愛され続けている。民芸作品のように味わい深いこの映画を、ぜひとも大スクリーンで隅々まで観て欲しい。トークには鳥取県に隣接する蒜山の高原でお米や野菜をつくり自分たちの食卓を開くようにお店を営む高谷夫妻を招く。食卓を囲む夫婦の姿を通して、時代に応じて変わりゆく流行と変えたくない本質について考えてみたい。

あらすじ
結婚して7年ほど経つ中年夫婦は、初めから生活態度や趣味の点でぴったりしないまま今に至る。そうした所在なさに耐えきれず友人たちと遊びまわる妻と、それにすら無関心な様子の夫。そんなか夫の海外派遣が転機をもたらす。

<1952年公開/115分/モノクロ/日本/配給 松竹>

TALK GUEST 高谷裕治・絵里香 蒜山耕藝



2011年夏に岡山県と鳥取県の県境にある蒜山・旧中和村に移住し、米農家を営む。「食べたいものをつくる」がコンセプト。農業を営むかたわら、自分たちの食卓、作業場を開く場として「くど」をオープン。2021年からは会員制の「小さな農民の会」をスタート。 <http://hiruzenkougei.com/>

SCHEDULE

- #1 子どもと映画 10/10 sun 14:00-17:15(開場 13:30) 映画終了後のアフタートーク約60分含む
『動くな、死ね、甦れ!』／トークゲスト:得田優(倉吉「自然がっこう 旅をする木」)
- #2 ショッピングモールと映画 10/31 sun 14:00-17:15(開場 13:30) 映画終了後のアフタートーク約60分含む
『ゾンビ』／トークゲスト:岡本健(近畿大学 総合社会学部 准教授)
- #3 食卓と映画 11/14 sun 14:00-17:15(開場 13:30) 映画終了後のアフタートーク約60分含む
『お茶漬けの味』／トークゲスト:高谷裕治・絵里香(岡山「蒜山耕芸」)

TICKET

予約不要／当日券のみ／シネマエポック窓口にて販売／定員146席

3回通し券	4,500円	シニア(60歳以上)	1,200円
一般	1,800円	高校生	1,100円
大学生	1,500円	中学生以下	1,000円

半券は
パープルタウン
各店舗で100円
引き券として
使えます。
(一部店舗除く)

ACCESS



シネマエポック

鳥取県倉吉市山根55 パープルタウン3F Tel 0858-48-9050

倉吉の街の映画館として親しまれて25年。3つのスクリーン、全362席を有し、アニメ・SF・ヒューマンドラマなど、様々な旬の話題作を毎日上映しています。出来立てのポップコーンの香りが漂うロビーでは、ドーナツなどのお菓子やスタッフのセレクトした映画関連グッズも販売しています。ショッピングの前に、後に、どうぞお気軽に立ち寄りください。

<http://www.purpletown.com/cinema>



企画:jig theater(ジグシアター)

2021年にオープンした、鳥取県湯梨浜町の東郷湖を一望する丘の上にある小さな映画館です。一風変わった、あるいはあまりに真摯な作りの映画を観た時、ある種の戸惑いを感じことがあります。映画というものが見知らぬ世界への窓となるだけでなく、見知ったはずの世界を別様に変えてしまうからです。それはすぐにこの社会の役には立つようなものではないかもしれません、私たちの人生を、そして社会のあり方をも根本的に変えてしまうかもしれない。戸惑いはいつか見た忘れえぬ光景として残り、これから的人生と共にあります。ジグシアターはそんな映画を皆さんに案内します。

<https://jig-theater.tumblr.com> jigtheater@gmail.com



@jig_theater

同時開催

パートンまるまる市
10.10 sun, 11.14 sun
10:00-15:00

会場 パータン1F 北側催事場

毎月・第二日曜にパープルタウン内の空きスペースで開催されている市場です。ご飯やドリンク、手作り雑貨から畠のお野菜、お悩み相談や占いなど、どんなお店が集まるかはその時のおたのしみ!「〇〇不動産プロジェクト」は、年間を通じて人と地域をつなげるさまざまな企画を実施する、パープルタウン株式会社と、うかぶLLCの協働プロジェクトです。

@maru2_fudosan @maru2.fudosan

